

一二世紀～一三世紀前半の掘立柱建物・木組方形井戸・木棺墓・大溝等が検出された。木簡は一三世紀前半の井戸内埋土より出土した。井戸内からは、多数の土器の他に、木製品・鹿角・種子等が出土した。須恵器碗・小皿および瓦器碗の中には四二点の墨書土器が存在した。文字は「有田」が八割を占め、他に「き」「上」「中」がある。また花押あるいは呪字と思われる墨書も五点存在する。また二条の大溝内上層から同時期の墨書土器が約一〇〇点、その下層からは八世紀の須恵器蓋内面に「五十戸」と書かれた墨書土器が出土している。

# 8 木簡の釈文・内容

(1) 「咄吠啞(符録) □□急々如律令

〔鬼鬼カ〕

(900)×95×8 010

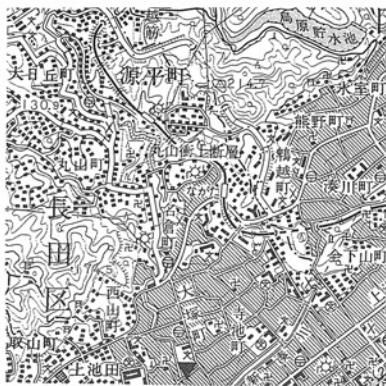
(安田 滋)



## 兵庫・長田神社境内遺跡

- 1 所在地 神戸市長田区長田町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～一〇月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 黒田恭正・佐伯二郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晩期、弥生時代後期、平安～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長田神社境内遺跡は六甲南麓に広がる平野の西端近く、六甲山系に源を発する多くの河川の一つ苅藻川の左岸にある。周辺には



(神戸)

縄文時代から鎌倉時代の遺跡が点在し、古墳時代の居館跡の松野遺跡や、八部郡衙推定地等も含まれている。調査は、当地で進められている再開発事業にともない実施された。その結果、縄文時代晩期の土壇、弥生時代後期の住居跡・溝、平安

(1)  $\begin{array}{c} \bullet \\ \vee \end{array} \begin{array}{c} \text{咄} \\ \text{呖} \\ \text{嚙} \end{array} \begin{array}{c} \square\square\square\square \\ \square\square\square\square \\ \square\square\square\square \end{array} \begin{array}{c} \vee \\ \wedge \\ \wedge \\ \wedge \end{array} \begin{array}{c} \square\square \\ \square\square \\ \square\square \\ \square\square \end{array} \begin{array}{c} \square \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \times$

•  $\begin{array}{c} \vee \\ \vee \end{array} \begin{array}{c} \square \\ \square \end{array} \begin{array}{c} \square \\ \square \end{array}$

(234)  $\times 28 \times 2$  035

時代の木棺墓、鎌倉時代の井戸等が検出されている。井戸は計四基あり、うち一基は井戸側材まで残存していたが、他はいずれも底部に据えられた水溜用の曲物があつたのみである。木簡出土の井戸もこれに属し、上部は破壊され、井戸側材などと共に瓦器坑・土師器坑・須恵器坑等が投棄されていた。木簡は水溜用曲物内より出土した。井戸が廃棄された時期は、鎌倉時代末と考えられる。

四へ約6km、天台系の山岳寺  
。当城跡のある西坂本から  
東坂本にかけては、古来、  
因幡街道沿いの要衝として、  
また、円教寺の門前町・宿  
場町として大いに栄えたら  
しい。坂本城は、室町時代  
に守護赤松氏の領国支配の  
拠点として、重要な行政機  
能を果したらしいが、城跡  
の実態は今一つ不明であっ

- 43